

～夢 実現に向けて一つ一つの節目を大切に～

【進学試験スタート】

7月18日(土)に実施される鹿児島高専の編入試験。3年生の進路に向けてのスタートはもう目前となりました。

さて、世の中の状況を見ると、大学等の上級学校は「総合型選抜試験」を充実させる傾向にあります。この試験は学力だけではなく、高校生活における「主体性・様々な探究活動・考えを言語化する力」が求められます。言い換えると、高校生活で部活動や資格取得、懸命に取り組んだ学びなど、学力には置き換えられない努力した点を評価していただける試験です。

また大学だけではなく専門学校も総合型選抜試験へシフトしているようです。早い場合は6月エントリー、9月出願、10月合格という流れがあるようです。進学を希望する1・2年生は早い段階から上級学校の募集要項など調べることは大切です。

【SPI 試験への取り組み】

今年度から1年生も SPI 問題集に取り組み、早めに就職対策として取り組むよう計画しています。SPI 試験は、就職活動で広く使われる適性検査で、基礎能力(言語・非言語)と性格特性をつかむためのものです。将来は進学や公務員を考えているという生徒もいるかもしれませんが、その公務員試験でも SPI の導入が増え、進学希望者もいずれ就職する際には SPI 実施の企業ばかりということで、高校生のうちから慣れるために実施しています。



さて、4月に実施した3年生の SPI 試験の結果を総括すると、本校3年生の平均点は全国平均より上ですが、就職試験で企業が求める6割程度の得点率には半数以上が届いていないという現状です。特に難易度の高い企業は、8割程度の得点率を求められる場合がありますが、その割合に対してはほんの一握りだけという結果です。SPI はやればやるだけ伸びる学習です。毎日朝学習の時間も取り入れています。その小さな時間を積み重ねて、大きな成果につなげられるよう努力しなければなりませんね。

【国公立大学進学を考えてみよう】

身近なところの国公立大学として、鹿児島大学があります。さてこの鹿児島大学では、鹿児島工業高校からどのような入試制度を利用して受験ができるのでしょうか。

- ①総合型選抜試験(AO型)・・・大学入学共通テストを課さない。調査書、面接、プレゼン実施。試験・・・10月、発表11月
- ②総合型選抜試験(自己推薦型)・・・共通テスト(例:機械工学では数ⅡBC、物理のみ)を課す。調査書・・・試験12月
発表2月(共通テストの内容は学科によって異なる)
- ③学校推薦型選抜Ⅰ・・・小論文、面接、調査書(教育学部、工学部、農学部など各学部学科で内容は若干異なる)
- ④学校推薦型選抜Ⅱ・・・共通テストを課す。調査書、面接実施。試験12月、発表2月(共通テストの内容は学科によって異なる)
- ⑤一般選抜・・・共通テストを課す。二次試験有り。

となっています。この入試制度は各大学によって異なります。自分の学びたいこと、自分の教科としての強みのある分野を活かして受験大学を選択することができます。

高校と大学の連絡協議会においては、工業高校から推薦で進学した生徒については、当初は基礎学力分野でやや劣る傾向がありますが、その後専門分野では挽回して、最終的には普通科系高校生徒と遜色なく、むしろ専門分野に特化した学生へと成長しますという報告もあります。

なお、大学等進学については、みなさん自身で大学(学部学科、入試制度)を調べる必要があります。入試制度は難しい場合がありますので、その際は担任の先生や進路指導室の進学担当の先生に相談してください。

※進学希望の1・2年生は早めの取り組みが重要です。その為には各大学で科す入試制度及び入試科目を早めに知り、早めの対策が必須です。この夏休みを利用して、進学先研究に励みましょう。

「20代で立てた3つの誓い」

行列のできる人気ラーメン店「一風堂（いっぷうどう）」
創業者で、力の源カンパニー社長・河原成美氏の話

会社をクビになり、親にも半ば諦められ、自分が生きる道を模索し始めた。

それは芝居だと思ったが、芝居だけでは食べていけない。いくつかの仕事を転々とする中で、兄の友人がやっていた店を「代わりにやらないか」と声を掛けられた。

大学時代にいくつかの飲食店のアルバイトを経験し、商売に対する好奇心もあった。

人生で初めて自分で決断らしい決断を下した瞬間だった。

といっても、商売のことは右も左も分からない。そこで私は自分に対する決め事を三つ作った。

- 一、三年間は休まない
- 一、売り上げゼロの日を作らない
- 一、三十五歳までには天職に就く

なぜ、こんな決め事を作ったのか。それは自分で自分のことが信じられなかったからだ。しかし、

「俺、覚悟決めて頑張ります」と言えば、他人のことは騙せるかもしれない。

だが、内側にいるもう一人の自分は、自分のことをよく知っている。

「いやいや、無理でしょ。これまで何一つとして成し遂げられなかったじゃん」と。

人生のスタートラインに立ったばかりの二十代の頃は、私は何よりも「内なる自分と信頼関係を築く」ことが大切だと思っている。

とにかく人は他人からの援助や協力を求めたがる。

しかし、一番大切なのは自分からの信頼だ。

だから自分との約束を守り、掲げた目標を達成する。それをやり遂げるまでの姿を、内なる自分はもちろん、他人も必ず見ているものである。

そこから「あいつは言ったことをやる奴だ」という、周囲の信頼も生まれ、自然と協力の輪が広まっていくのではないだろうか。

結果として私は三年間、一日も休まずに店を開け続けた。酒を扱う商売なだけに飲み過ぎた日もあった。付き合っている女の子に旅行に誘われた時もある。でも、休まなかった。

そうして三年後、「河原成美もやればできるじゃん」と、内なる自分から理解を得られたように思う。そこから私の人生の扉が開いていったと感じている。